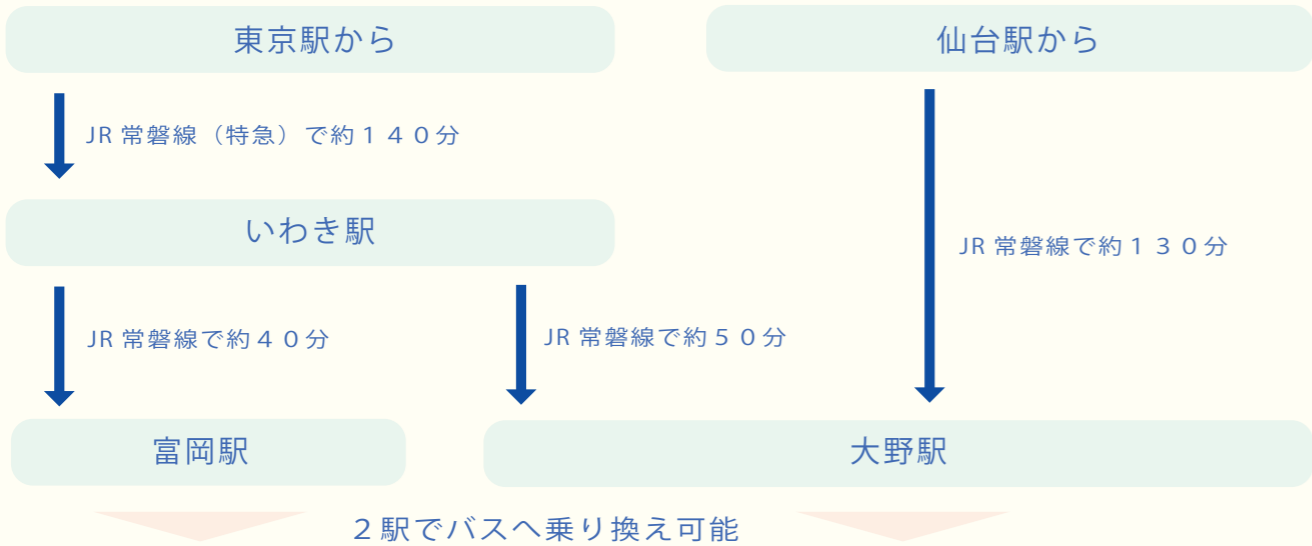



大熊町へのアクセスのご案内



● 大熊町生活循環バス

[路線] 本紙4ページを参照
[運賃] 無料(令和2年2月時点)
[時刻表等] 大熊町HP参照

www.town.okuma.fukushima.jp/soshiki/kikakuchosei/11380.html



※ 電車との乗り換えをご検討の際は、事前に時刻表をよくご確認の上、ご利用ください。

富岡駅より約20分
↓
大野駅より約15分

【大川原復興拠点】

大熊町役場庁舎, 商業・交流・宿泊温浴施設, 公営住宅, 福島再生賃貸住宅,
[令和2年冬以降順次開業予定]

おおくまもみの木苑(グループホーム), 大熊町住民福祉センター, その他周辺施設など
[令和2年春開業予定]

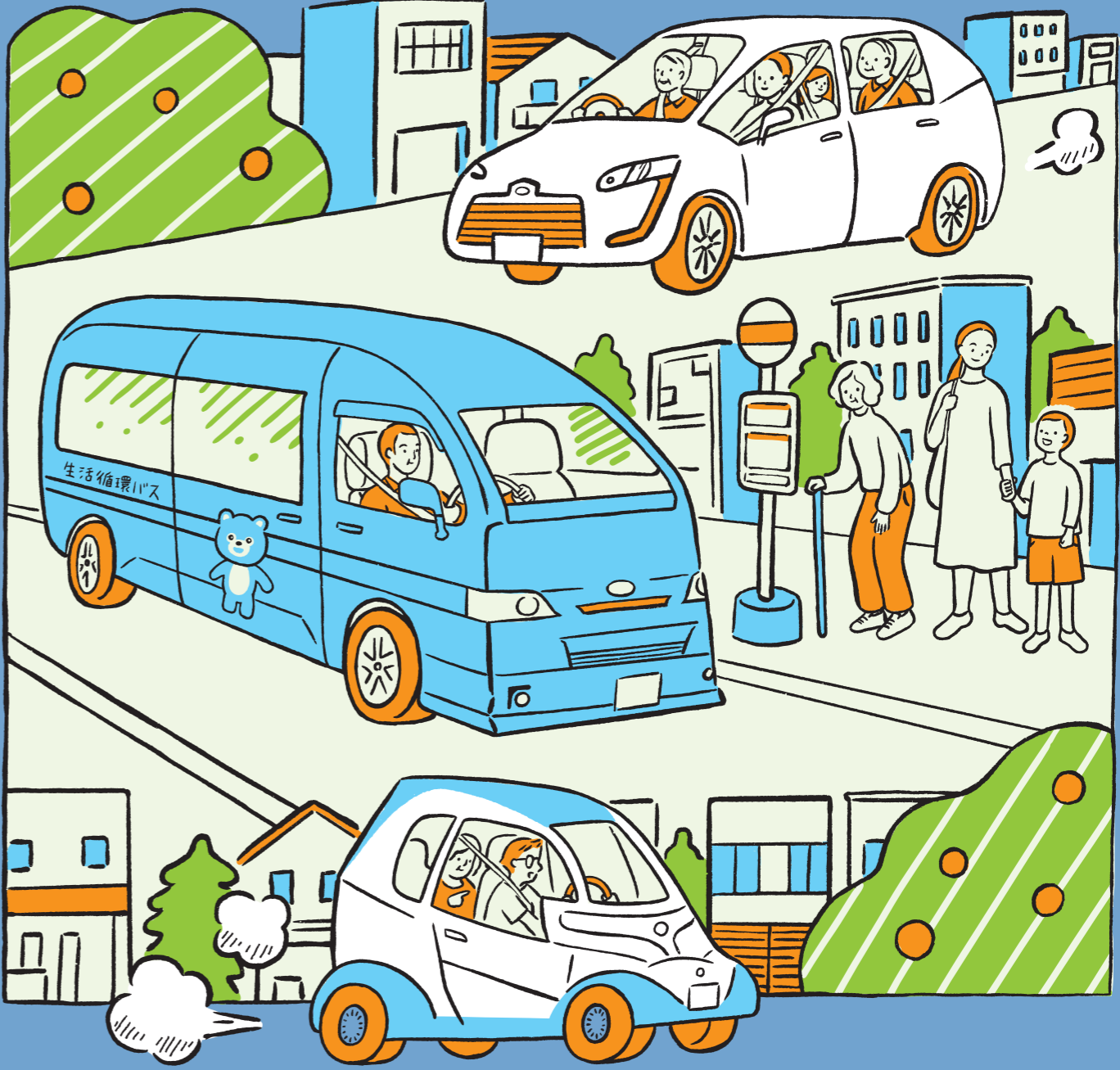
※ 上記の所要時間はおおよその目安になります。
JR常磐線の運行に関しては公表されている時刻表等をご確認ください。

本誌に関するお問い合わせ先

大熊町役場 企画調整課 企画振興係
TEL:0240-23-7584(直通)
FAX:0240-23-7844
MAIL:kikakuchosei@town.okuma.fukushima.jp

大熊町 交通 まちづくり ビジョン

Okuma Traffic Vision



大熊町交通まちづくりビジョンについて

目的

町内で生活される方や大熊町を訪れる方々が、安心して過ごすことができるよう、町として交通に関する基本的な方針を示します

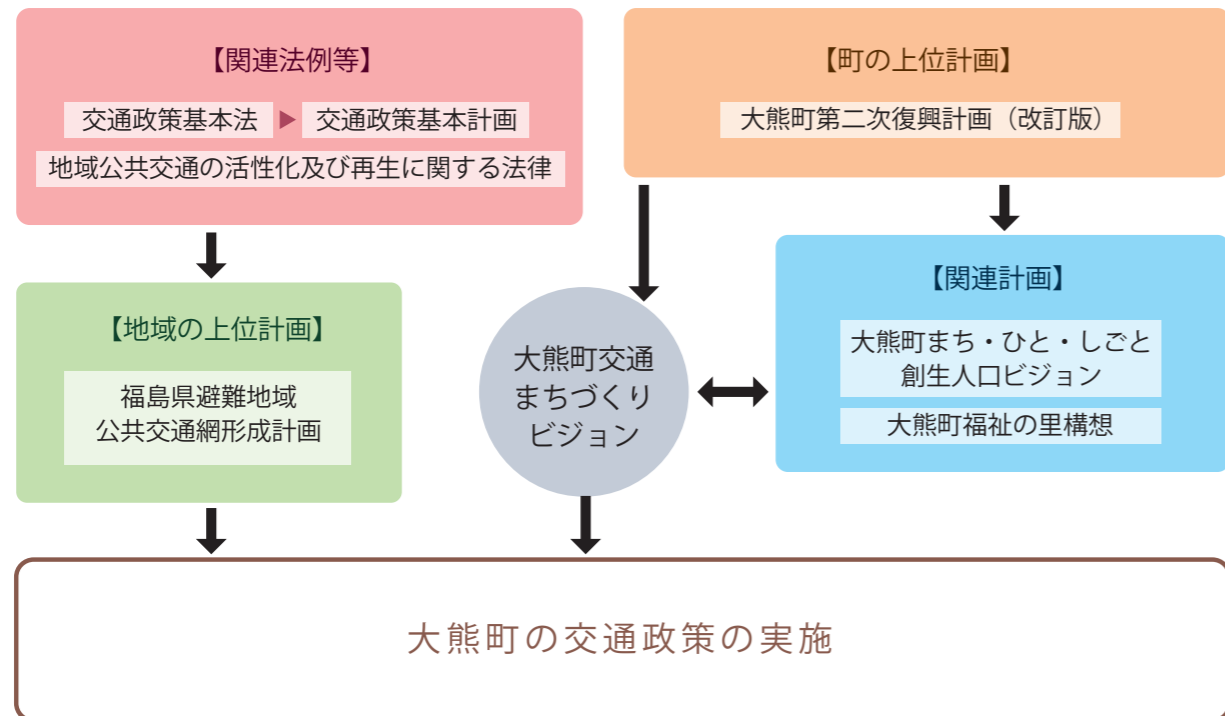
大熊町は、平成31年4月に町内一部の避難指示が解除され、いよいよ帰還の第一歩を踏み出しました。今後はさらに特定復興再生拠点区域復興再生計画などにより一層の復興整備が期待されます。現在、大熊町内では、約9年間の避難指示及び廃炉・復興事業等により交通環境が以前と大きく変わっています。また、段階的な整備が今後行われていくことで、この環境は年々変化することが予想されます。

このような状況の中で、大熊町内で生活される方や訪れる方々が不安を感じることなく、より安心して過ごすことができるよう、町として交通に関する基本的な方針をこのビジョンにおいて示します。

今後は、このビジョンを基に、専門家、関係機関や住民の皆様等との意見交換を踏まえつつ、交通に関する施策を実施します。

位置づけ

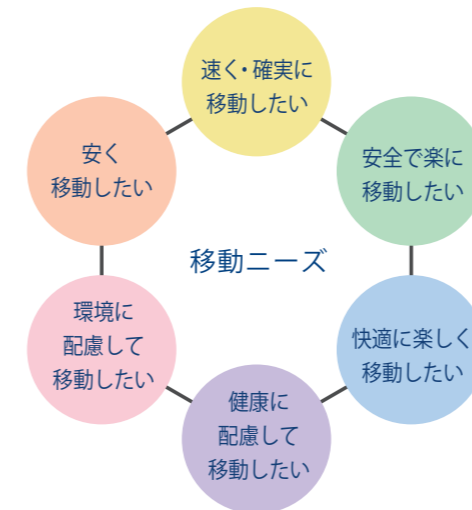
本ビジョンは、大熊町における交通施策に関する基本的な方針となるものであり、「大熊町第二次復興計画（改訂版）」の関連方針として位置付けられます。また、本町に関わる地域公共交通計画である「福島県避難地域公共交通網形成計画」やその他関連計画等とも整合を図り、より一体的なまちづくりを目指していきます。



基本方針

大熊町の町内交通に関する移動ニーズは、今後の復興整備に合わせ多岐にわたることが想定されますが、その中でも、短期的には移動の障壁となる課題を積極的に取り除くこと、中期的には導入した交通等に関して、特に担い手や収支（金銭面）の観点から持続的な体系とすること、長期的には「大熊町2050ゼロカーボン宣言」に則り、町内での交通に関する取り組みが大熊町の魅力の一つとなることを目指して、次の3つの基本方針を定めます。

大熊町交通まちづくりビジョンの基本方針		
【短期】	【中期】	【長期】
安心して住まう・訪れることができるまち	地域共助による持続的な交通のあふれるまち	複数の拠点とこれらを繋げるコンパクトで便利なまち



特に大熊町で想定されるニーズと課題

- 【ニーズ】
 - ▶ 買物や通勤・通学など、生活をする上での日常的な町外への移動が多い。
 - ▶ 就労者の単身赴任や町民の避難先と町内の行き来などの二地域居住が多い。
 - ▶ 中長距離の移動に対応できる公共交通網がない。
- 【課題】
 - ▶ 高齢者の方などドア to ドアでの移動が可能な交通も必要。
 - ▶ 毎日の通勤などの移動に自家用車を運転するのが自動運転など新たなモビリティの導入等負担となる。

期間

大熊町特定復興再生拠点区域復興再生計画等の具体的な復興整備計画に基づき、段階的な整備目標を踏まえて、居住人口等の目標を定める令和2年から令和9年までの8年を期間とします。

- 令和2年	短期目標	住民の帰還を誘発する移動システムの導入
	具体施策	期間後必要な移動手段（公共交通）の確保
令和3年-5年	中期目標	持続性の創出に向けたシステムの改良
	具体施策	共助による持続性のある交通システムの検討
令和6年-9年	長期目標	地域の魅力創出に寄与する次世代交通に向けた取り組み
	具体施策	自動運転車両の実験的運用等

● 今後の大熊町の移動ニーズについて

番号 = 図1で示した移動 番号の色 = 凡例で示した移動ニーズの発生想定時期

凡例	● 現在	● 令和2年春以降
	● 令和3年春以降	● 令和4年春以降

町民生活	町民の生活・住まい・交通・買い物	大川原・下野上地区拠点内の移動	① ②
		役場新庁舎の利用	① ③ ⑥ ⑦
		大熊IC・常磐富岡ICの利用	④ ⑥ ⑦
		JR常磐線大野駅の利用	② ③ ④ ⑦
		主な生活用品の買い物 (令和3年春まで：さくらモールとみおか) (令和3年春から：大川原地区内商業施設)	① ③ ⑥ ⑦
医療・福祉	町民の通院（大川原地区内、町外）		① ⑥ ⑦
産業・雇用・コミュニティ	下野上地区内への従業員の通勤		② ④
	町内住民の町外への通勤		② ③ ④ ⑥ ⑦
教育・子育て	町内児童の通学（大川原教育施設）		① ③ ⑦
復興整備	除染・廃炉	関連従業員の通勤	② ④ ⑤
		除染土等の運搬	② ④ ⑤
	インフラ整備	関連従業員の通勤	② ④

図1

大熊町では、段階的なインフラ復旧・避難指示解除・復興拠点整備等を計画しています。様々な条件が存在する中で、将来の町内の移動ニーズは時期に応じて右図の各移動には上記の表のようなニーズの発生が想定されます。

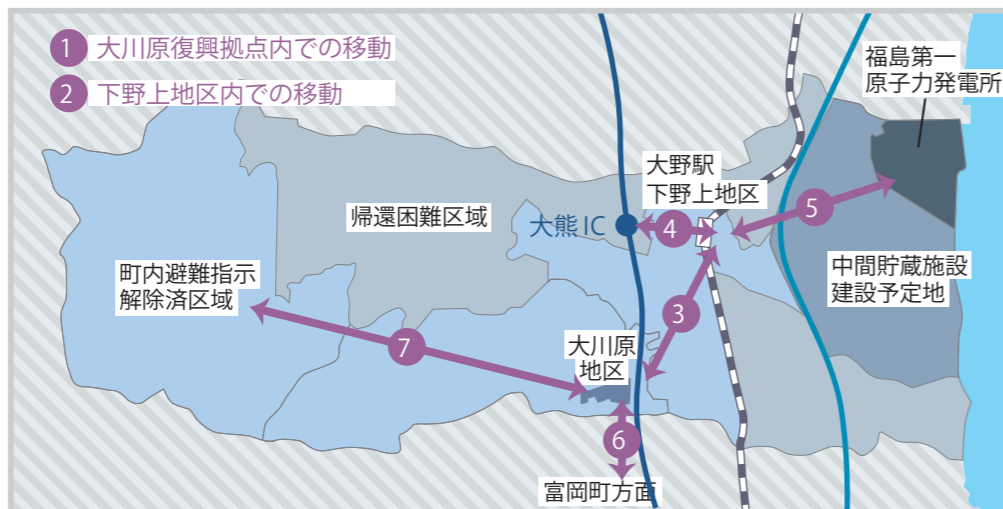
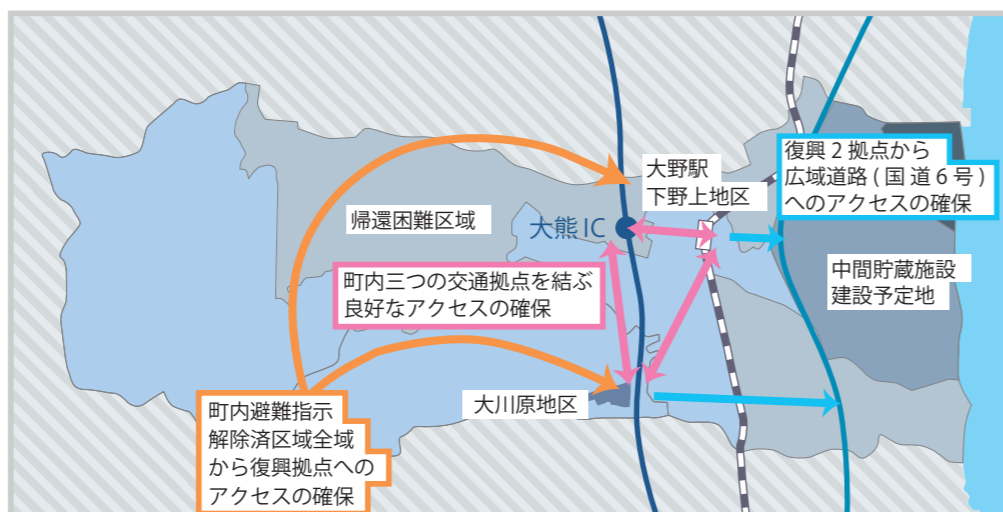


図2

将来の移動ニーズに対応するため、特に図2中の各交通アクセスの確保について、各施策に取り組んでいきます。また、交通体系の実現に向けて、より詳細なコンセプトとして交通まちづくりマップ(別添)を作成しています。



● 大熊町生活循環バスについて

大熊町が目指す交通体系では、大川原地区と下野上地区の2つの拠点をどのように結ぶかが重要になってきます。令和2年春の一部避難指示解除や令和4年春の特定復興再生拠点区域の全面避難指示解除などの段階的な町の姿に柔軟に対応するため、大熊町では生活循環バスを運行しています。町内の復興整備の進捗に合わせて、下図のような運行を計画しています。



生活循環バスの路線と役割

現在の路線

住民の方の生活に必要な施設までの確実な交通の確保、及び役場に訪れる町民の方の交通手段の確保を役割として、大川原地区と富岡町内の各施設・JR富岡駅とを結ぶ路線としています。

令和2年春以降の路線

引き続き、富岡町内への生活に必要な施設までの交通として機能しつつ、JR常磐線の全線開通に合わせて、役場までの交通手段としてJR大野駅と大川原地区とを結ぶ路線とします。

令和4年春以降の路線

大川原地区・下野上地区の2つの復興拠点を中心に、町内に生活に必要な施設が整うことから、引き続き役場までの交通手段の確保に加え、2拠点間をつなぐ役割として、大川原地区と下野上地区・JR大野駅を結ぶ路線とします。

バスの運行時間はJR常磐線のダイヤに合わせており、駅でスムーズな乗り換えが可能となっています。



大熊町生活循環バスは、将来的に高齢者の方やお子様も含めたあらゆる大熊町民の皆様が帰町を選択できる環境を整えるために必要とされています。将来的にも継続的な運行を実施していくために、一定の規模の利用が見込めるようになる令和3年以降には、公共交通として利用者の皆様に運賃の一部をご負担いただく計画としております。

●大熊町共助タクシーについて

【目的】

大熊町の基幹公共交通となる町内循環バスのバス停までの移動が困難な方や、バスが運行していない時間に移動を必要とする方に対し、町内に住む方・働く方が協力し合い、共助・互助の力で町内の交通利便性を向上させます。

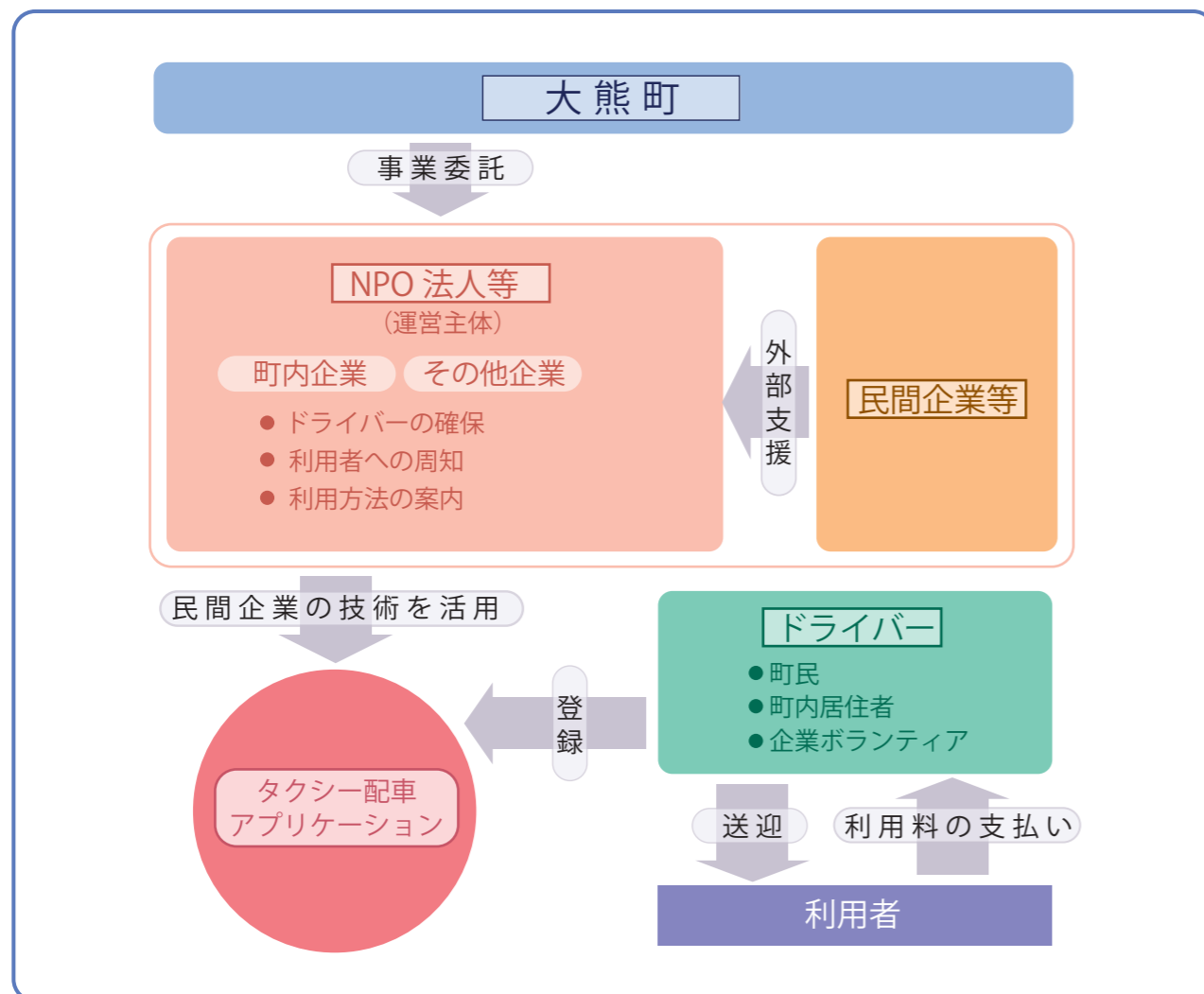
【サービス内容】 町民ドライバーによる町内の送迎

町内にお住まいの方の利用イメージ

- ・自宅～最寄りバス停（※バス運行時間帯）
- ・夜にいわき市で飲食をした後、大野駅～自宅

町外に避難されている町民の方の利用イメージ

- ・帰町準備のための大野駅～従前の自宅
- ・お盆等のお墓参りで役場前バス停～町営墓地



【特徴】

第二種普通自動車運転免許を持っていない町民でも送迎が可能な無報酬（燃料代等の実費を除く）による仕組みを想定しています。

民間企業によるアプリケーションを活用し、ドライバーの登録・管理、利用者の利便性を確保したサービスを目指します。

町内に住む町民だけでなく、町内の企業に働く方など、大熊町に関わる方が町の課題解決に少しずつ協力できる仕組みを整えていきます。

導入検討中の その他の取り組み

大熊町では、複数の復興拠点の整備が進んでいますが、拠点間・拠点内はもちろんのこと、町内のどの場所にお住まいの方にも、不便を感じる事のない交通を提供することを目標に検討を行っています。

シェアモビリティによるラストワンマイル交通の展開

【シェアサイクル】

大野駅周辺や大川原地区周辺などの拠点整備の進捗に合わせた短距離の移動手段や、今後の復興ツーリズムへの活用などを見込み、町内のスローモビリティとして整備を検討しています。



参考：千葉市シェアサイクル

【カーシェア】

大野駅～大川原拠点間の移動や、ビジネス関係で町内に訪れる方向けに整備を検討しています。併せて、乗り捨て可能なもの等、町内の利用ニーズに合わせた管理運営方法を検討しています。



出典：タイムズモビリティ株式会社

自動運転の実証実験ができるまちづくり

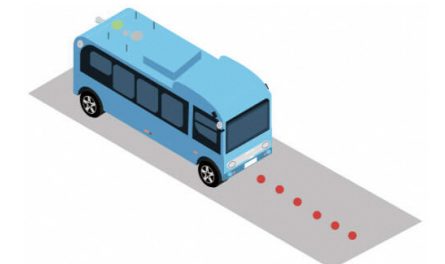
次世代の交通システムとして期待される自動運転技術についても、町として積極的な導入を検討していきます。今後整備を予定している町道を中心に、自動運転に必要なハード整備の手法などを民間企業と協力して検討を進めていきます。

自動運転技術のイメージ



出典：SBドライブ株式会社

・GPS位置情報によるルート認識



出典：SBドライブ株式会社

・磁気マーカによるルート認識
・車載カメラによる路面認識技術等

自動運転車両のイメージ



出典：「Robo car Walk」実証レポート
一人乗りカート型



出典：「Robo Car MiniVan」実証レポート
小型バス



出典：SBドライブ株式会社